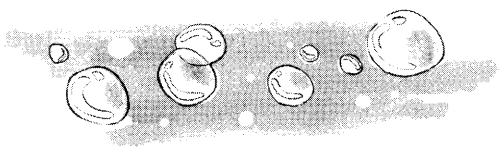
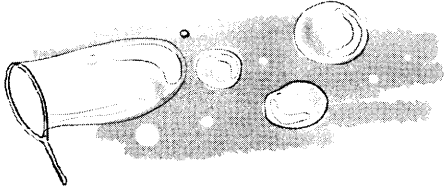


碑いしぶみ

宮坂静生



碑に小鳥のいのち借り申す
碑の辺の明易し千年後
句碑は鯨潮吹きあぐる新樹海
玉虫の流離の色よ姨捨山へ
墓処のみの故郷玉虫よく飛べる
一夜の豊年虫は千曲川好き
憲法の日ひとよひの捌き役六地藏



胡麻汚こまよごしとて一握の金漆樹こしあぶら
齒応への深山刺草やまいらくさよき友へ
牡丹は風の翼を隠しをり
雪柳ふぶきむかしの山ばかり
枯葦の穂の立ち尽くす金剛力
ヨーロッパとは茱萸ぐみの菓子血の色よ
澁澤龍彦門 故杉田聰とは親しき友
杉田聰夫人が呉るゝ胡蝶蘭
ある夏の日
夕焼どき壺の碑噓びをり